

コンピュータ：マシンからメディアへ：技術から文化へ

〈コンピュータ・アート展'74〉展の目的は、私達の現代の社会にとってより望ましい形で適合する新しいメディアを、コンピュータを機軸とした情報空間として実現するということにあります。これは現代の知識集約的指向の中で、コンピュータ・メディアのアーティフィシャル・インテリジェンス化の傾向と実現を促し拡大するものであります。

この意味で〈コンピュータ・アート展'73〉展に続く今回の展覧会は、私達の概念を再び確認するところから出発しております。1960年代に起ってきた社会構造の質的転換は、物と情報の移動におけるインターフェースの構造、その速度と密度の変化に顕著に見られますが、それを促し支えているものに、コンピュータのめざましい発展があります。

いわゆるオンライン化は異空間の同時性を果たし、さらに端末における入出力の容易化は、ハードウェアとしてのコンピュータの日常化の傾向をすすめ、そこにマシンからメディアへの変質をもたらしており、単なる技術から脱し文化全体に大きな影響を与える社会の媒質化の傾向を明らかにして居ります。

●第二紀のコンピュータ・アート：

このような時期を、私たちはコンピュータ・アートの第二紀と認識して創造の様式、展覧会形式における情報伝送のあたし五概念を提案するものであります。

これは、今及び今以後の私たちの社会、ひいては人類全体にとっての自発的な情報系—思考系としてコンピュータ・メディアを新たに開発し、その中に新しい人間の精神の外延を拓いてゆくことであり、殊に今回のサイバネティック・アートリップ展に於ては、人間にとっての精神・感覚・コミュニケーション・創造性等の面に最も重点が置かれた形で実現されるものであります。

●受けとり側の主体性に於て成立する新しいメディア：

今回のコンピュータ・アート展の大きな特徴は、コミュニケーションの相互成立、ことに受けとり側の自発性・主体性・人間性、又その精神・感覚・コミュニケーションの面に大きな重点がおかれているところにあります。

その作品又は情況にふれることにより、個人の内側にあるものと、自ら出会うことを可能にするような様式—これが現代において最も望まれているものではないでしょうか。これは、まったく新しい意味での人間開発であり、これまで一部の芸術家・作家及びそれを取りまく少数の閉鎖的な愛好家のものであった。芸術と呼ばれてきた精神活動、又産業の独占物の観のあったテクノロジーをより新しい形で、より多くの人々に開放する効果をもつところのものであります。そして、これは又、これまで互に離れたところで閉鎖的に成長してきた技術・経済と文化を新たに結びつけるところのものでもあります。

コンピュータは発生以来極めて速い発展を遂げて来ましたが、このため常に激しい過渡状態にあると云えましょう。現時点のテクノロジーは私達の精神活動に充分に対応出来る水準に達して居るとは云えない点が残念乍ら多々ありますが私たちのプロジェクトもこの分野の技術コンセプトの絶え間無い進展と平行した長い視点に立った継続的な活動の一環として、毎年より高い水準、より充実した内容として実現すべく努力致しております。そしてこの研究開発及び（コンピュータ・アート'74）展の実施が社会への提言として、テクノロジー及び社会の構造・機能に対し、新しい人間性の側面から望ましい影響を与える端緒となることを心から希っているものであります。

★★★★

コンピュータ・アート・センター

